

釧路南ロータリークラブ会報

第26回 例会報告 2021.2.12 通算1834回

・点 鐘

奈良会長

・ロータリーソング

「我等の生業」



ソングリーダー 佐藤 潤会員



・入会記念祝

亀岡 孝会員 H24. 2. 17 (9年目)

・会長挨拶

みなさんこんにちは。

本年度 27 回目の会長挨拶をさせていただきます。本日もコロナ感染対策として食事をお弁当に変更させていただき例会時間も短縮さ



せていただきますのでメンバーの皆様にはご理解とご協力をお願い致します。

先週の「職場訪問例会」では大変寒い中釧路 YEG と東北北海道スポーツコミッションで作成したスケートリンクを見学いただきありがとうございました。

YEG 担当委員長、スポーツコミッション理事長より話がありました通りコロナ過の閉塞感を打ち破り釧路の風土、環境を生かしたスポーツの産業化を目指して開催しております。先週の土曜日 6 日から昨日 11 日まで延べ 2071 人の来場をいただきました。

小さな子供たちから大人の方まで多くの皆様楽しんでいただけていると感じています。14 日までの日程となっておりますのでお時間のある方は是非来場いただければと思います。

本日のプログラムは「平和と紛争予防・紛争解決月間に因んで」となっております。担当委員長の方は後ほど宜しくお願い致します。最後に来週から新しい仲間が増えますので入会式を行う予定です。

メンバー皆で温かく迎えたいと思います。多くの出席をお願い致します。

以上会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

・幹事報告



* 2500 地区より台湾国際大会についてお知らせがきております。6月に台湾で開催予定の国際大会ですがバーチャル開催に変更になりましたことをお伝えいたします。

・本日のプログラム

「平和と紛争予防／紛争解決月間に因んで」

担当 国際奉仕委員会

◆福井奉仕プロジェクト委員長

1905年2月23日に、シカゴで4人の友人が集まり、最初の会合を持った日を創立記念日としています。また、この日を「世界理解と平和の日」と決めまし



た。4人の創業者は、ポール・ハリス（弁護士）、ハイラム・ショレー（洋服商）、シルベスタ・シール（石炭商）、ガスターバス・ローア（鉱山技師）です。以前2月は「世界理解月間」でしたが、2014年のRI理事会で、「平和と紛争予防／紛争解決月間」に変わりました。紛争予防と仲裁に関する若者を対象に研修の実施、紛争地域における平和構築の支援、平和と紛争予防／紛争解決に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人に奨学金を支援しています。ロータリーは「平和維持」を、第一次世界大戦前に決議してから、今までロータリー平和センターへの支援をして、世界の平和を維持し、紛争の根本原因に取り組んできた長い歴史があります。

1921年の国際大会で、ポール・ハリスは「一つの国の国民の人々が繋がり合い、互いに友情を築くことを呼びかけた」。ハリスは、国際理解と平和との繋がりを理解していた一人でした。

1921年の国際大会に寄せたメッセージで、「一つの国の国民が他国の人を理解すればするほど、衝突の可能性は低くなる。だからこそ、ロータリーは各国の人々が繋がり合い、互いに友情を築くことを呼びかけています。

1921年にスコットランドで開催された国際大会で、ロータリーの定款を修正し、「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」という目標を加えました。

さらに、1922年の国際大会では、国際ロータリーと各クラブの定款が全面的に変更されました。それぞれ異なっていた目的が、「ロータリーの目的」へと置き換えられました。

1940年に開催された国際大会では、「ロータリーは世界的紛争の渦中にある」という声明を採択し、「誓いの言葉を持つ自由、正義、真実、尊厳、そして人権の尊重がない世界では、ロータリーが存在することはおろか、その理想を広めることすらできない」と訴えました。(第二次世界大戦 1939年～1945年) 外国での大学院教育を対象にした奨学金制度は1947年に始まり、ポール・ハリス逝去後、献花の代わりに寄付を望んだハリスの遺志を受けて、ロータリー財団への寄付がロータリー本部に殺到しました。奨学金プログラムへの資金がポール・ハリス記念基金から充てられることになり、大学院レベルの奨学金が地区補助金やグローバル補助金に組み込まれるようになりました。

1990年代に入ると、ハリス逝去50周年を機に、平和構築に携わっている人たちに、大学院に進むための奨学金を授与することにしました。2002年に「ロータリー平和センター」が設立され、ロータリー平和フェローの教育がスタートされました。平和センターは、世界各地の大学に設置され、地域社会や世界を舞台に平和を推進するリーダーを養成しています。平和フェローたちは、紛争の原因について学び、人権や国際関係、国際保健衛生、開発といった分野における現実的な問題に対し、革新的な解決策を生み出す実用的なスキルを身につけます。1921年に「ロータリー財団の父」と呼ばれる、アーチ・クランプが、「ロータリーは大学ではないが、果たすべき教育的な役割がある。世界中の人々に関心を友好的な協力という概念に向けさせることだ」と言っています。

紛争や迫害によって5,100万人の人が難民生活を強いられています。

紛争で命を落とした犠牲者の90%が一般市民で、その内少なくとも半数が子供です。毎年2万人の人が地雷によって手足や命を奪われています。

紛争への対応としては、紛争の原因について学ぶ平和フォーラムを開催し市民同士で話し合う機会を提供する。社会に疎外され、暴力や迫害の危険にさらされた人々を支援する。紛争で親を亡くしたり、負傷したり、心に傷を負った子供たちを助ける。

ロータリーはこのような紛争対応に行動しようと呼びかけています。ロータリーは、異文化交流を通じて相互の理解の心を育て、紛争解決のスキルを備えた人材の教育を通じ平和な世界づくりを促進しています。ロータリー会員は、奉仕プロジェクトや平和フェロー・奨学生への支援を通じ、貧困、差別、民族間の衝突、教育機会の欠如、リソースの不平等な配分といった紛争の根底にある問題に取り組むために行動を起こしています。



平和と紛争予防/ 紛争解決月間に因んで



釧路南ロータリークラブ

ロータリー創立記念日

・1905年2月23日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスが、友人三人と最初に会合をもった日であり、この創立記念日は「世界理解と平和の日」として順守されている。

【創業者】(右から)

- ポール・ハリス (弁護士)
- ハイラム E. ショレー (洋商)
- シルベスター・シール (石炭商)
- ガスターバス E. ロアア (鉱山技師)



平和と紛争予防/紛争解決月間

世界理解月間



平和と紛争予防/
紛争解決月間

- ・紛争予防と仲裁に関する研修の実施
- ・紛争地域における平和構築の支援
- ・平和と紛争予防/紛争解決に仕事に従事することを
目指す専門職業人のための奨学金支援



ロータリーの平和の維持

・1914年、国際ロータリーの持つ影響力を、世界の国家間の平和維持に役立てることを提案
(カナダ・オンタリオ州ハミルトンRCの会員)

・ロータリーは「平和維持」を第一次世界大戦前に決議し、世界の平和を維持し、紛争の根本原因に取り組んできた。
(第一次世界大戦1914年～1918年)

・ポール・ハリスは、「一つの国の国民が他国の人を理解すればするほど、衝突の可能性は低くなる。ロータリーは各国の人々が繋がりが合い、互いに友情を築くことを呼び掛けた」

ロータリーの目的

- ・1921年、国際ロータリーの定款を修正した。
「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進する」という目標を加えた
- ・1922年 国際ロータリーと各クラブの定款が、全面的に変更され、異なっていた目的がロータリーの目的へと統一された。

釧路南ロータリークラブ定款

第4条 目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として、ロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を實踐すること；

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

国際連合

- ・1945年 国際連合（国連）の設立に、ロータリーが関わった。「国際機構に関する連合国会議」に、世界各国のロータリアンが、自国の代表団のメンバーや顧問として出席。
(第二次世界大戦 1939年～1945年)
- ・ロータリーと国際連合は今も、国際関係の強化、生活と地域社会の改善、より平和な世界の創出につなげようと尽力している。
- ・国際ロータリーは、国際連合経済社会理事会が非政府団体に付与する最高の諮問資格を保有している。

奨学金

- ・1947年に外国での大学院教育を対象とした奨学金制度が始まり、これがロータリー財団初のプログラムとなった。
- ・1947年のハリス逝去後、奨学金プログラムへの資金が、ポール・ハリス記念基金から充てられるようになった。この奨学金制度は、「国際親善奨学金」として地区補助金やグローバル補助金に組み込まれた。

ロータリー平和センター

- ・1990年代に、ハリス没後50周年を機に、平和構築に携わっている人たちに、大学院に進むための奨学金を授与し、平和関連課程で教育を受けてもらう。
- ・2002年、「ロータリー平和センター」の設立。センターは世界各地の大学に設置され、地域社会や世界の舞台に平和を推進する平和フェロー（特別研究員）を養成。
(日本には、東京の国際基督教大学に設置されている)

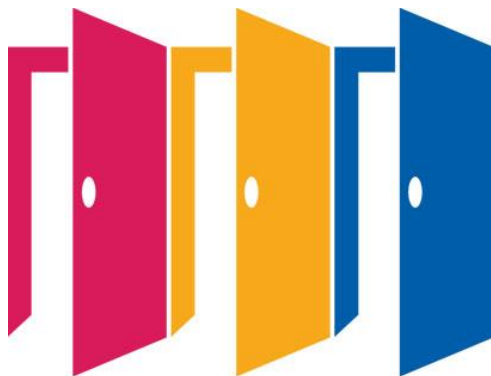
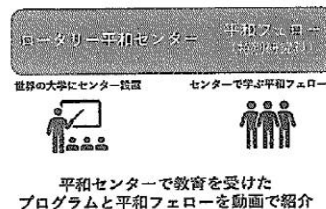
平和フェロー

- ・平和フェロー（特別研究員）たちは、紛争の原因を学び、人権や国際関係、国際保健衛生・開発分野における問題に対し、解決策を生み出すスキルを身に着ける。
- ・1921年に「ロータリー財団の父」と呼ばれるアーチ・クランプが、「ロータリーは大学ではないが、果たすべき教育的な役割がある。世界中の人々の関心を友好的な協力という概念に向けさせることだ」

平和な世界をつくるロータリー

- ・紛争や迫害によって、5千100万人の人が難民生活。命を落とした犠牲者の90%が一般市民。ロータリーは、紛争解決のスキルを備えた人材の育成を通じ平和な世界づくりを促進します。
- ・ロータリーは、奉仕プロジェクトや平和フェロー・奨学生への支援を通じ、貧困、差別、民族間の衝突、教育機会の欠如、リソース（人的・物質的資源）の不平等な配分といった紛争の根拠にある問題に取り組むために行動を起こしています。

ロータリー平和センタープログラム



ロータリーは機会の扉を開く



・次回のプログラム

2月19日（金）

「会員卓話」+WEB

会場 ANA クラウンプラザホテル釧路 12:30～

担当：クラブ会報委員会

・点 鐘 奈良会長

今週の会報担当：上川原昭会員